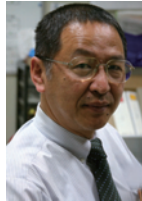




近森会 リハビリテーション体制の革新

ベースは急性期から維持期までの強固な連携

近森リハビリテーション病院 院長
栗原正紀

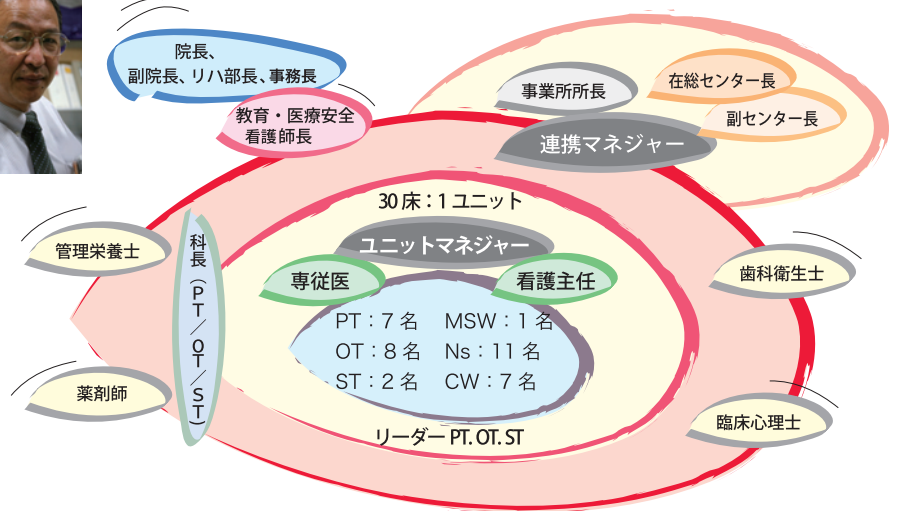


平成18年度の医療保険と介護保険の同時改正に伴い、リハ体制の革新を行うことにしました。

まず、急性期（近森病院）では脳血管等リハ、運動器リハ、呼吸器リハ、心大血管リハの4つの施設基準を取得し、従来通りの人員配置でより充実したサービスが提供できるようにします。回復期（近森リハ病院）では30床の運動器リハ専門ユニットを設定します。

また体制として地域連携の推進、入院期間の短縮、リハサービスの質の向上を目指して、従来からのチーフ制を廃止し、マネージャー制を導入、各ユニ

近森リハビリテーション病院 運営新組織図



ト（30床）で経験豊富なユニットマネージャー（看護師長など職種は種々）が

な仕事につかれていたので一旦はあきらめかけていたが、この春退官されたため、4月1日から長年の夢が叶って近森に来ていただくことになった。

病理診断ばかりでなく、臨床検査室全体を指導していただく顧問として、また長年医学生を育てた経験を活かして、研修医の指導もお願いしたい。そうして近森会全体の医療の質に厚みを持たせていただければと願っています。

担当の先生方は病理解剖を積極的に行なって、患者さんから教えられることを吸収して、よりよい医療を行なっていただきたい。若い先生方は円山先生の部屋に気楽に出入りして、医療の基本である病理に親しんでほしい。

円山先生と私は、「患者さんにとってのいい医療」という、求めるものが同じだから30年ものお付き合いが続いたと思う。当たり前のことを当たり前に行なう先生は少ない。共に医療の夢を追っていきたい。

（理事長・ちかもり まさゆき）

運営・調整役を担うようにします。このことで専従医を含めた現場スタッフは患者さんの生活機能・能力障害に対してより効率良く且つ徹底したサービスが提供できるものと考えています。

また、主に維持期との連携を着実にすると共に医療保険サービスから介護保険へスムーズに移行できるように援助する目的で連携マネージャー（2名：訪問系担当および通所・通院系担当）を配します。

さらに、病院内に訪問リハビリテーション事業所を新設します。このことで在宅・地域生活へのソフトランディングができるように支援します。

そして、維持期（在宅総合ケアセンター近森）においては特にデイケア（通所リハビリ）を通過型として捉え、リハ機能の質の向上を図り、老健いごっばちの高齢者専用デイケア（活動性の維持・向上）に加えて、リハクリニックに比較的若年者用のデイケア（活動性の更なる向上と地域復帰）を新設します。これらの革新により、急性期から維持期までの強固な連携の下で適時・適切な質の高いリハサービスが効果的に提供されていくことを目指します。

共に医療の夢を

近森 正幸



この度、近森に病理部長として来ていただいた円山英昭先生とは、私が外科医として高知に帰ってきた昭和53年からの長いお付き合いである。病理学は医療の基本だということで、いつの日か病理解剖をいつでもできる病院にしたいと思っていた。

当時は近森病院に病理解剖室がなかったため、円山先生に設計してもらったのが昭和54年だったと思う。人間としても包容力があって人間味のある温かい人柄の先生である。その頃からぜひ近森にお願いしていたが、間もなく病理学の教授になられ、後には大学の医学部長にもなられて管理的

えんざん

円山英昭先生・検査部病理部長に就任

高知医科大学（高知大学医学部）で、病理学の教育・研究や病理診断業務を中心に活躍された円山教授が、医学部長定年退官を機にこの4月1日付で、近森病院検査部病理部長に就任された（1面参照）。近森理事長、川添管理部長とも就任を喜び大歓迎！の円山先生に抱負を語っていただいた。【プロフィール】広島県出身、広島大学医学部、広島大学大学院修了。「勤務のため土佐山田一高知駅間を列車で往復します。初めての経験であり、視点が変わることを楽しみにしています」。



▲手術材料切り出し中の円山部長と病理スタッフの橘知佐さん

全ての病気には原因があり経過がある。「病理医」はこの流れ全部と関わる。これが例えば円山先生の役割で、ほとんどの医師が臨床医として患者さんと直接関わるなかで、病理医は患者さんの病態を主治医に伝える立場にある。

円山先生の病理の研究分野は肝臓がご専門であったが、今後は「研究者というより診断病理の役割が求められているので、研究に裏打ちされた病理学的情報を正確に主治医に伝え、全面的に主治医を支援します」と決意を語られる。

そのためには、患者さんの病態について徹底的に討議できるよう率直な話し合いが持てる環境づくりを工夫することが大事で、小さなカンファレンスを定期的に行うなど、いくつかの構想がすでに動き始めているそうだ。

さらに、病理解剖も円山先生の仕事である。「病理解剖を行なうことで病気はさらに明らかになり、医学や医療の進歩に役立つ」というのが基本スタンスだ。画像診断技術の著しい進歩とその他の優れた検査法の導入などにより、病理解剖数は国内外において年々減少しているそうだが、「診療の専門分化が進む最近の医療動向のなかで全身の肉眼観察に始まる病理解剖の意義は大きい」と言われる。

「大学院生のときが70年安保、大学紛争」の世代で、ご自身の節目には常々

「内科医になる！」と言い続けておられたそうだが、病気の発生機序を探る魅力の方が先生には大きかったのだろう。

患者さんに対してどうすべきか迷ったら「もし自分の親であればと考え、それによって最善の診療を行なおう」と後進に伝えてくれたという。学生の教育に長く携わってこれ、医療をいかに教えるかというとき、結局これが「医療の原点」にもなるのだろう。

『感染管理に関するツール集』のご紹介

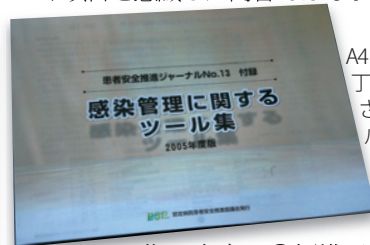
2005年度版

近森病院 副院長

北村 龍彦



日本医療機能評価機構の医療安全推進協議会感染管理部会は平成17年度に発足しました。平成17年度は、部会長の私を含めた10名のコアメンバーとともに、感染管理分野において会員病院の困っていることのアンケート調査から課題抽出を行い、2回の部会において、延べ130の会員病院のICP（感染管理実践者）の参加・協力を得て、感染管理を実践するための『感染管理に関するツール集2005年度版』を成果物としてまとめました。これは、決して医療機能評価の認定のためだけの視点や項目を意識した内容ではありません。



A4版40頁で丁寧に編集されたツール集

ツール集の内容は①標準予防策、②感染経路別予防策、③サーベイランスの大きく3分野に分かれ、②感染経路別はさらに接触・飛沫・空気感染に分かれ、③サーベイランスは医療器具関連と微生物に細分化し、合計6テーマにつき集約を行いました。

感染経路別の予防策は標準予防策を実践した上で実施されるべき予防策であり、各経路別予防策に共通した留意点は各々単独で利用する場合でも見逃さないように重複して記載しました。近森病院ははじめ各医療施設で利用していただき、感染管理の質の向上につながる幸いです。

また、平成18年度の感染管理部会の活動はツール集の改定や項目追加、各施設での感染管理の質の向上への対策などを検討していく予定です。

聴診器

ナースのお仕事



私が看護師の道を選んだのは、幼い頃からの夢・あこがれからでした。働き始めると「身内に看護師をしている人がいたから」、「人の役に立つ仕事をしたかった」等、仕事内容を把握しやすい環境であったり、目標を持ち、この職を選んだ人が多いことに衝撃を受けました。何にも考えず、ただ、あこがれだけで看護師の道に進んだことが恥ずかしく思えませんでした。

最近の看護師ドラマは現実に近づきつつありますが、私が中学・高校時代の看護師（当時は看護婦）ドラマといえば、シーツや包帯を屋上に干したり、注射や擦り傷程度の処置を行なうのがヤマで（手術といえば盲腸だったような…）、とてもきれいなイメージでした。そのイメージのまま、働き始めた訳ではありませんが、最初はそのギャップに驚き、うろたえ、こんなことでは看護師は続けられないと悔し涙を流すこともありました。

しかし、自分で選んだ道という思いや、良い意味での慣れ、患者さんと共に歩む、そして患者さんから学ぶ、その積み重ねが今までの自分を支えてくれたと思います。実家に帰れば、師長とはいえ親にとっては娘。娘よりお昼の「みのもんだ」を信じている父がいます。まだまだ、精進しなくては…。

（新館6階東棟看護師長 影山美佳）

地域医療連携室 の新体制

日浦利恵さん

「今後は地域発信で」

3月末日付で退職された連携室担当の日浦利恵看護師長の退職のご挨拶です。



「地域医療連携室スタートの段階から関わらせていただき貴重な経験の数々がありました。地域と近森病院との間での連携業務は病院方針に後押しされ、地域の先生方に支えられて今日まで育てていただきました。

昨年は広がりつつある連携の必要性にネットワーク会を発足させたことで、Face to faceの形で次へとバトンタッチができました。これからは地域より発信する立場で連携に関わらせていただきます」。

新メンバーでスタート

後ろから堀地美紀クラーク・山中福子看護師・和田道子看護師長



日浦利恵看護師長の退職に伴い、異動がありましたのでお知らせします。

近森会 28年の経験をフル活用して、昨年10月からさっそく地域に飛び出して動き回っている和田道子看護師長。「こう見えて近森会の新人ナースです！」と控えめながら仕事熱心で地域の状況を早くつかみたいと張り切る山中福子看護師。「裏方は任しちよいてください」と、密かにファイトを燃やす堀地美紀事務担当クラークの三人です。

今後とも益々のスムーズな連携を目指して頑張る覚悟です。お引き立てをよろしくお願い致します。

院外エッセイ

頑固に「かつとよ」で通す

岩崎 義郎

いわさき よしろう 1927年旧大野見村生まれ。実業界を経て土佐観光ガイドボランティアガイド協会創立に参加、会長・副会長などを歴任。土佐史談会理事。著書『高知城を歩く』『一豊の妻見性院 出自の謎を追う』『土佐人の銅像を歩く』『追跡、純信お馬』など



私がボランティアの観光ガイドを始めてから、早くも18年になります。同時に生まれた子どもが大学生になるまでの期間というわけですから、よくもまあ続いたものだ、我ながら感心したりしております。40年近くも勤めた会社を退職するときには、こんな第二の人生が待ち受けているとは、想像もできなかったのですが、実はある席で著名な歴史家がバスガイドさんの説明の誤りに憤慨されるのを聞き、一人ぐらいちゃんとした歴史を語れる観光ガイドがいてもよいのではないかと、ひそかに思っていたところに、たまたま高知市が「第1回土佐観光大学」を開講し、その卒業生47人で「土佐観光ガイドボランティア協会」を創立したのが、そもそもの始まりとなったわけです。

ガイドを始めてみて気がついたことですが、お客さんがすべて歴史好きというわけではないということです。しかし、話の根拠は大切ですので、まずはしっかりした土佐の歴史の基礎を身につけること、そのうえにたって雑学的な抽斗ひきだしもできるだけ多く用意

し、相手によって話題を変えながら、楽しかったとっていただけるガイドができれば上等です。料理人がお客さんの注文で出したこだわりの一品料理に「ウン、うまい」といってもらえたら最高の幸せでしょう。道は遠いと思いつつ、そんなガイドを目指して頑張っています。

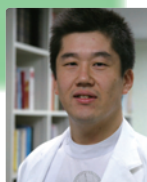
こだわりといえば「山内一豊」。NHKは今年の大河ドラマ『功名が辻』制作にあたって「やまうちかずとよ」と呼ぶことにしました。私は土佐山内家では戦いに勝つにかけて「かつとよ」と呼んでいたと聞いておりますので、頑固に「かつとよ」で通しています。やはりこれもいごっそうの血がなせることなのでしょう。

今年是大河ドラマ『功名が辻』に合わせて高知城で「土佐二十四万石博」が開かれており、会場北入り口に常設の案内所が設けられて、私どもが交代で毎日定時に高知城の無料案内をしております。ぜひいちど高知城の新しい発見においでしてみられませんか。

整形外科の 連携パス

整形外科科長

西井 幸信



現在、整形外科のクリニカルパスは6つありますが、人工膝関節置換術を行った患者は本院で約2週間入院の後、リハビリテーション病院に転医するケースが多く、急性期及びリハビリ期を含めた連携パスにする必要があると考えて、現在本院及びリハビリテーション病院のスタッフと会合を開いて作成中です。

当院での連携パスははじめての試みでクリニカルパス委員長の脳外科高橋先生にも参加していただいて5月からの使用に向けて関係スタッフが頑張っているところです。リハビリテーション

病院でのクリニカルパスの使用は初めてということもあり、本院とパスの書式を統一した形にしようとしています。

人工膝関節置換術の症例は現在増加中で今後もさらに増える見込みです。また今回の診療報酬改定に伴い、大腿骨頸部骨折について連携パスを用いることで点数がとれるようになりました。

しかし算定するにあたり複数の病院との連携を含めた算定のための基準がいくつかあり、これについても現在のパスをもとにして当院とリハビリテーション病院、高知病院、高知総合リハビリテーション病院、平田病院、岩河整形外科との間で施設申請を行っているところです。今後、連携パスは多くの疾患で増えていくと予想されます。

また、8月5日のクリニカルパス大会では人工膝関節置換術の連携パスがテーマになる予定ですので、ぜひ御参加下さい。

新人紹介乞熱烈応援

①所属や部署や職種②出身③最終出身校④趣味など自己アピール、を示します。なお、写真の左から順にプロフィールを掲載しています。

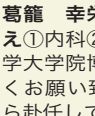
医師



大野 尚徳 おおの なお
のり①整形外科②愛媛県松山市③川崎医科大学④初高知ですので、早く土佐弁を習得したいと思います。趣味はテニスと琉球泡盛の勉強です。ぜひお誘い下さい。



北村 亜以 きたむら あい
①整形外科②高知市③岡山大学④10年ぶりに高知へ里帰りしてきました。すっかりインドア派になってしまったので高知で自然を楽しみたいです。



葛籠 幸栄 つづら さちえ
①内科②広島県③高知大学大学院博士課程④よろしくお願致します。4月から赴任してきました。



藤田 康文 ふじた やすふみ
①心臓血管外科②岡山県③岡山大学④症例の多い近森病院で勤務できることは誠に光栄です。はやく戦力となれるよう、尽力したいと思います。



岩崎 衣津 いわさき えつ
①麻酔科②高知市③岡山大学④みんなでワイワイ楽しく遊ぶこと（スポーツ、宴会など）が大好きです。いつでも声をかけて誘ってください。

臨床研修医（後期）



南 大揮 みなみ だいき
①内科②奈半利町③岡山大学④9年ぶりに高知に帰ってきましたが、やっぱり土佐弁はえいですね。趣味は阪神タイガースというほど大ファンです。その他、ゴルフ・マラソンなどもします。

樽井 俊 たるい すぐる
①外科・心臓血管外科②東京都③東京医科大学歯科大学④四国は初めてで、土佐弁から勉強します。趣味はテニスですが、最近ほとんどできなかったのもまた始めたいと思っています。

臨床研修医



枝川 永二郎 えだかわ えいじろう
②奈良県③大阪医科大学④大学では軽音楽部でギターを弾いていました。車好きでもあるので、皆さんが乗っている車を覚えていきます！！

大槻 祐喜 おおつき ゆうき
②大阪府高槻市③大阪医科大学④大学では柔道部でした。柔道で培った精神を生かして働きたいと思っています。サッカー・野球 etc. スポーツは何でも大好きです。野球はもちろん阪神タイガースファンです。

高矢 憲一 たかや けんいち
②神戸市③高知大学④大学で6年間バスケットをして培った体力をイカしてがんばりたいと思っています。最近、お腹がプヨプヨで重くて困ってます。

土居 江里奈 とい えりな
②香美市③高知大学④高知生まれ高知育ちで、高知が大好きです。今まで実家だったので一人暮らしが楽しみです。早く近森病院になじみたいです。

三宅 千智 みやけ ちさと
②岐阜県③高知大学④高知で暮らし始めて、早7年目です。海の向こうの岐阜が懐かしくなることもあります。あと2年高知のキレイな海と空気と水を満喫したいです。

出張報告①米国静脈経腸栄養学会②ジョージア州アトランタ・エモリー大学病院研修

栄養士の業務の責任の重さを改めて実感しました。

栄養科 真壁 昇

米国静脈経腸栄養学会 (ASPEN) は、世界の静脈経腸栄養管理をリードする学会として知られている。今年は、ニューオーリンズで開催予定であったが、ハリケーン「カトリーナ」の影響で、急遽ダラスに変更された。ダラスといえばケネディ (JFK) 大統領が射殺された場所として有名であるが、学会開催会場の近くであった。



路上にはケネディ大統領が射殺された場所を示す×マーク

さて米国静脈経腸栄養学会 (ASPEN) で特徴的であった内容として、急性・慢性膵炎に対する栄養療法において、完全静脈栄養 (TPN) よりも経腸栄養 (EN) の方が、治療成績がよいことであった。まさに近森病院においても検討している内容であり、確信を得た。

また、経鼻チューブの誤挿入の問題についても幅広く議論されており、レ

▼宮澤科長 (左) と学会会場入り口で



ントゲン撮影を毎回行わない各種方法が論じられていた。さらに、Dudrick といえば TPN の開発者として、また「TPN は鉄砲である」と印象的な言葉を残した先生として知っていたが、意外にユーモラスな先生で驚いた。この Dudrick シンポジウムでは、エモリー大学の Ziegler (小腸絨毛の萎縮予防としてグルタミンが有効であることを発見した先生) が、短腸症候群 (SBS) の栄養管理について力説した。小腸ストーマを造設するなどして、水分管理に難渋する栄養管理も、**グルタミンと当院で用いている OS-1 (経口補水液) を用いることで、今後は可能になるであろう**という内容であった。

また学会終了後、栄養科の宮澤科長が留学していたエモリー大学病院において研修を行ってきた (写真 3、4)。エモリー大学病院では全室個室であ

▼宮澤科長も留学していたエモリー大学



り、重症患者のみ ICU、CCU のようなユニット管理を行っていた。

日本と医療法制的の違いがあるものの、NST 栄養士は中心静脈カテーテルや経鼻腸管留置を行い、栄養処方も NST 栄養士や NST 薬剤師らによって主導的に行われていた。

また栄養サポートを行うもう 1 つのチームとして、クリティカルケアチームが機能していた。時に NST と意見対立をするようで、コンセンサスを取りながら進めていた。この中で、経口摂取管理から静脈栄養および経腸栄養管理、さらに嚥下訓練時の経腸栄養管理について研修を行ってきた。日本の医療従事者にはおそらく想像を絶するであろう栄養士の業務内容であった。その分、責任の重みがあり、訴えられることも少なくないようである。

今回、学会参加および病院研修によって学んできた貴重な知識や経験内容をもとに、**近森会全体の栄養管理のレベルアップ**につなげ、またこういう内容をここ近森会から**日本中に発信**していきたいと考えている。

第 64 回を迎えた

救急医療症例検討会報告

泌尿器科科長 片岡 真一

3月初旬、根岸部長から救急医療の勉強会における講演の依頼を受けました。急遽資料を集め、ひとまずまとめてみました。4月4日管理棟5階会議室で開かれた検討会ではまず、救急隊員と香西医師による腎外傷2症例の提示につづき、腎外傷について学びました。ついで、片岡が泌尿器科領域の救急医療について話させていただきました。最後に高知赤十字病院の西山部長から、救急医療協議会の内容報告がありました。活発な質疑応答で、約2時間、あっという間に経過していました。

泌尿器科は、最初から救急医療に携わることは多くありませんが、順次診断がつくと連絡を受け、そこから診療に関わってゆきます。そこで今回の講演が、少しでも日常業務の助になれば光栄と思っています。



▼発表して下さった皆さん、左から嶺北消防署大豊分署の山本有司さん、泌尿器科の香西哲夫医師、高知赤十字病院の西山謹吾救急部長、泌尿器科の片岡真一科長、司会の根岸正敏救急部長

看護師の立場で専門的に栄養サポートを行うNST看護師専門療法士認定証



▼栄養評価を専門に行う栄養サポートチーム(NST)の「NST T回診」は1週間で全フロア約140人の患者さんを回り、とくに集中治療病棟については週2度ずつの回診が行なわれている



時間まで毎回大変とは思いますが、今後もぜひ継続し、関係の皆さまの救急医療方面でのご活躍を期待しています。

山下佐和(褥瘡担当)看護師長 NST 看護師に

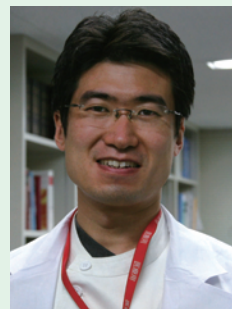
●左下の写真では近森理事長の右後ろ
平成15年7月、日本国内でもいち早く栄養面の管理システムを立ちあげた近森会で、褥瘡管理の面からずっとこの活動に主体的に関わってきた山下看護師長が、日本静脈経腸栄養学会認定資格である栄養サポートチーム専門療法士看護師の第一回認定を受けた。褥瘡予防に果たす栄養の役割の大きさをずっと感じてきた山下看護師長は、今後とも「看護師の立場で栄養を専門的に考えられるよう、NST看護師のすそ野を拡げたい」と抱負を語ってくれた。近森会でのNST専門療法士は栄養科の宮澤科長、真壁昇さんに次いで三人目となる。

ドクター・アイ

妻の適応能力に…

整形外科 平方 栄一

高知に来て早8カ月が過ぎようとしています。関西出身の私と妻にとって、高知はある意味外国のようなイメージがありました。関西の親、兄弟、友人たちも同じだったようで、送別会では今生の別れのような挨拶を幾度となく聞かされたことはいまでもありません。



さて期待と不安の混じった気持ちで高知生活が始まったわけですが、案の定、来て早々妻の表情に曇りが見られるようになりました。身寄りも知り合いも一人もいない土地で一歳に満たない娘と二人きり(＋私?)の生活では無理もなかったのかもしれませんが、妻の不安が娘にも伝わるためか、娘の夜泣きも日に日に度を増してきました。どうしたものかと考えつつも、私自身何もできずに数週間が過ぎ去ったわけですが、ふと気付くと妻の表情が穏やかになり、元のように笑顔が見られるようになっていました。

何が妻を変えたのか? 答えは、商店街や市場のおばちゃんたち、通りすがりの高校生等々、顔も名前も知らない人たちでした。娘がいることもあり、妻は買い物に行く度にいろいろな人から声を掛けられるそうです。当初、大阪出身、大阪育ちの妻は当然のごとく、警戒心をもっていましたが、徐々にその必要がないことに気付き、今では道端で初めて会った人と30分程の立ち話をするのは当たり前です。話題は子育てに始まり延々と尽きることがないようです。お裾分けをいただけてくることもしばしばになりました。

高知にはいい意味での「おせっかいな」人たちが多くことに感謝するとともに妻の適応能力に感心させられる今日この頃です。そうこうしている内に次の子の予定日が近づいてきました。お父さんも頑張らねば……。

熱烈応援
主任昇格の抱負

医療福祉部主任 藤井 しのぶ

今、情勢は介護保険の改定や自立支援法施行などめまぐるしく変化しています。またこの4月から新たに、在宅総合ケアセンターに高知市より高知市障害者支援センターの委託を受けることとなりました。今までの介護保険分野に加え、障害の分野でも地域での軸となりサポートしていくことが期待されています。

私たちソーシャルワーカーは、利用者の方にとってどのように情勢が動き変わっていくのかを見据え、伝えていくこ



と。不利益には戦略を立て働きかけていくこと。この激動の変化に主体的に関わっていく必要を感じています。

生来のんびりした性格で、ワーカーとしてもまだまだ勉強不足ですが、様々な問題を抱えた利用者の方のそばにいて活用される、在総相談室を目指して行きたいと思います。微力ながらも頑張りたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

リレーエッセイ

休日の過ごし方
～癒やし篇～

検査室 梅原 加奈子



皆さんは休日をどのように過ごすのが好きですか？
私は寂しがりやのせいか、家で一人で過ごすことは耐えられませんが、ですから先日も、ダリの絵が松山に来てしていると聞くと観光がてらふらっと出かけてついでに道後温泉にも入ってきました。休みの日に家で寝ているとあっという間に一日が終わってしまいます。しかし、何かしらしていると一日の休みが長く感じられ得した気分になってしまうのは私だけの自己満足でしょうか。
季節ごとに行っていることもあります。毎年春は母とだけ

のこ掘りに出かけるのが小学校からの恒例行事です。もう10年以上も山に入っているのになかなか目が慣れずいきを探することはまだできません。山の中にしゃがんでみると竹だけに囲まれ神秘的な気分になれるのです。

そしてもう一つ、ダイビング。去年の1月に思い立ってライセンスをとりました。海の中は信じられないぐらい不思議な世界で、地上にいると潜って見たものが夢のように感じます。私は落ち込んだ時によくダイビングをします。それはきっと現実逃避できるからでしょう。潜っている時だけは何も考えずにひたすら無心になれるのです。美味しい魚や綺麗な珊瑚に色とりどりの生物たちに出会えるのも楽しみの一つです。

このように自然と戯れていると日常生活では考えられないような体験が待っています。その時々的心情により感じ方も違い、新鮮な発見もできたりします。飲みに行ったりすることも大好きですが、たまにはこのような休日を過ごすのも楽しいですよ。

図書室便り

(近森病院・2月受入分)

- ・整形外科・病理 悪性腫瘍取扱い規約 第3版 / 日本整形外科学会、骨・軟部腫瘍委員会 (編集)
- ・外科・病理 胆道癌取扱い規約 第5版 / 日本胆道外科学会 (編集)
- ・泌尿器科・病理 精巣腫瘍取扱い規約 第3版 / 日本泌尿器科学会、日本病理学会 (編集)
- ・甲状腺癌取扱い規約 第6版 / 甲状腺外科学会 (編集)
- ・医師のため治験ハンドブック 改訂第6版 / 薬事審査研究会 (監修)
- ・シュミレーションで学ぶ 救急対応マニュアル 2小児・高齢者・女性編 / 千代孝夫 (編集)
- ・第36回日本看護学会論文集 (地域看護) / (社)日本看護協会 (編集)
- ・錠剤・カプセル剤 粉碎ハンドブック 第4版 / 佐川賢一 (他監修)
- ・薬効別薬価基準 保険薬事典 平成18年4月版 / 薬事研究会 (編集)
- ・医療政策六法 平成16年版 / 医療法制研究会 (監修)
- ・高知の女性の生活史ひとくちに話せる人生じゃあない / 高知の女性の生活史作成実行委員会 (編集)
- ・生協の白石さん / 白石昌則、東京農工大学の学生の皆さん
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ NAFLD のすべて / 西原利治 (編集)

● 5月の歳時記 ●

あやめ

文と画 言語療法科 言語聴覚士
藤本 友美

初夏の水辺。紫や白い花を咲かせる。長い花茎をまっすぐに伸ばし静寂の中で一茎ずつゆっくりと美しい花を開いていく。それはまさしく「神秘的な人」。黄と白の虎斑という衣装までどこか神秘的。見る人の目と心までも思わず吸い込んであたりに静寂を与える花。花言葉は、神秘的な人・良い便り。



編集室通信

▼近森会に、136名の新入職員が入職してきました。私は、この新入職員のグループワークを担当したのですが、ギラギラした前向きな目と、全身から伝わるエネルギッシュなパワーに圧倒されました。こんな新

- 人となら、理事長が大切にしているチーム
- 医療が出来るだろうと期待がもて、反対に「負けてられないな!!」という競争相手
- を思わせる大きさを感じました。私にとって初心に戻ることと、若さというエネルギーを戴いた貴重な時間でした。(由似)

3月の診療数

近森会 外来患者数	20,565 人
近森会 新入院患者数	823 人
近森会 退院患者数	852 人
地域医療支援病院紹介率	80.88 %
近森病院平均在院日数	15.10 日
近森会 平均在院日数	23.42 日
近森病院救急車搬入件数	424 件
うち入院件数	213 件
手術件数 (手術室での)	253 件
うち全身麻酔件数	130 件

企画情報室